伊万里小コーラス部 全国で銅賞

8月25日に開催された、NHK全国学校音楽コンクール九州・沖縄ブロックコンクールで、伊万里小学校コーラス部が見事金賞を獲得しました。

9月26日、6年生部員5人が市役所を訪問し、深浦弘信市長に全国コンクール出場を報告しました。部長の前川爽心さんは、「練習の成果を出すことができて、全国コンクールに出場できるので、達成感があります。NHKホールでも自分たちの声を響かせて、金賞を取りたいです」と意気込みを語りました。

コーラス部は、10月9日に東京都のNHKホールで開催された全国コンクール小学校の部に12年ぶり出場し、11校中、見事銅賞を受賞しました。

↑全国コンクール出場の報告を行う伊万里小学校コーラス部６年生部員

みんなで考えよう 人権・同和問題 No.261

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

平和のこころ

●問合先　生涯学習課人権・同和教育係（☎23-3186）

その昔、たくさんの人が亡くなりました。『自由』や『権利』がないがしろにされて、戦争になってしまったからです。反省した世界の人たちは、「もう二度と戦争はしません」と約束しました。それが『世界人権宣言』です。それなのに、ウクライナでは今日も、子どもたちが命の危険にさらされています。悲しいことですが、世界人権宣言のことを忘れている人たちがいるのです。

ご存じでしょうか。世界人権宣言と『日本国憲法』は似ています。どちらも「人権が大切にされない社会に、平和は訪れない」という強い願いで作られました。このことを踏まえると、日本国憲法は『日本人権宣言』と言いかえることができるのかもしれません。

日本国憲法が公布されたとき、焼け野が原で当時の日本人は、何を思ったのでしょう。戦争で疲れ果て、愛する家族を奪われ、無力感でいっぱいだった国民の心に、小さな希望の灯をともしたもの、それが日本国憲法だったのではないでしょうか。

１９９９年オランダのハーグに、１００を超える国々から、約１万人の平和運動家などが集まって開かれた『世界市民平和会議』で、日本国憲法が改めて高く評価されました。戦争放棄の精神が、世界の道しるべとされたのです。このことからも、日本国憲法は今も、色あせることのない、未来への希望であり続けていることがわかります。

しかし、世界では今も、戦争の火種がくすぶっています。愛する子どもたちが、いつまでも戦争を知らない子どもたちのままでいてくれますように、日本国憲法が持つ平和のこころを、次の世代へとつなげていかなくてはいけません。

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑦

●問合先　生涯学習課歴史民俗資料館（☎22-7107）

色絵蜘蛛巣紅葉文皿（鍋島焼）

今月は、色絵蜘蛛巣紅葉文皿を紹介します。

１６７０～１６８０年代に作られた鍋島焼です。器形は変形皿で、鍋島焼の決まりごとが定まっていない初期鍋島の作品です。

濃い藍色に発色した染付素地に、『墨弾き』という技法を用いて蜘蛛の巣を表しています。

墨弾きとは、素焼した素地に墨で線を描き、その上からコバルト顔料である呉須絵の具を塗りこめ、本焼すると、墨で描いた線だけが燃えて弾けて、白い線が残ります。鍋島焼では繊細な模様を表すときによく用いる技法です。

蜘蛛の巣の糸一本一本は髪の毛ほどの太さで、鍋島藩窯の陶工の技術力の高さがわかります。

さらに赤、黄、緑の上絵の具で、もみじ葉を散らすように描いて、焼きつけています。先月に紹介した『竜田川文』と同様に、深まる秋の情緒が『もののあわれ』を感じさせます。

デザイン力や技術力の高さに非の打ちどころがない、鍋島焼屈指の名品です。

●伊万里・鍋島ギャラリー

※入館料は無料です。

（☎22-2267）

↑色絵蜘蛛巣紅葉文皿